



揚海周延筆

御本丸
大真

明良三葉州七編

万亭應賀作

下の
まはち

上の
まはち





明良葉艸七編

万亭應賀作

上巻

あまのこ

A623
13

色景菱川の瀧子王



一 点我王の御事

あつたての御事

あつたての御事

あつたての御事

明良二葉艸七編

上の巻

- 一 春日の局御日記を取調る事
- 一 竹千代君の御庭へ鴉藁の人形をこころへ来る事
- 一 於末女中局より衣服を惠せ具服の間格へ召上ふ事
- 一 大姥の方局へ神君十九才の時三州大樹寺より御危難を免れぬよ白本尊の利益と黒本尊の由来を語り給ふ事

下の巻

- 一 大御所本卦旋ふつき慶長六年正月元日肉身の水像を造りしり給ふ事
- 一 柳生但馬守竹千代君の御部へ出て天野康景の忠功を語らる事
- 一 大御所御本丸大奥へ御入あひて御臺所竹千代君国千代君を始り總女中御目見の上御食膳出る事

万亭應賀著

二葉艸七編

48-7677

柳生但馬守菅原宗矩

此候ハ聖廟の末裔但馬

守宗嚴の二男也

関ヶ原の御陣也

始て御當家へ

仕へ兵法の達人

あるは三代君の御師範と

あり天下政務もまを

大功ありあ七十六才を病ももり時此

家へ家光公成せられ死ふもむ例あき從四位下



の贈位也

以て黄泉の靈を照る

天野三郎兵衛尉康景

此候ハ天野藤内遠景

の末孫

三河の國甚右

五門

尉の

男也幼年

より智勇の戦功

屢あり也御二字を頂き

天正三年正月十七日下女



歌の上の句の吉夢を

御連歌の佳例

とある然るも君臣の

義と

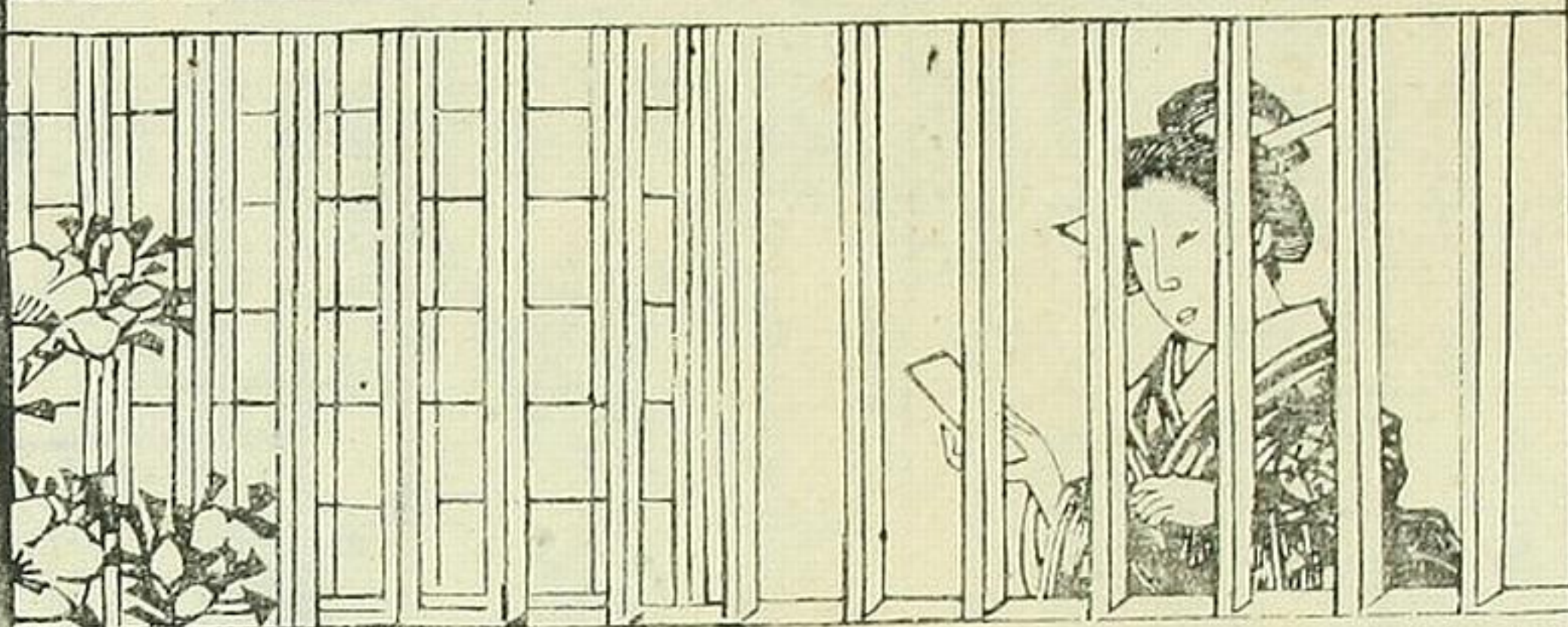
欠る

三月九日駿州真國寺の城

一カ五十石を棄て逐電せる賢人あり

慶長十二年

252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270



271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300



301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320

321
 322
 323
 324
 325

326
 327
 328
 329
 330

言中より作るものなる



△老女は春の日の光を浴びて
 花の香りをかぐ
 用は後には
 花の香りをかぐ

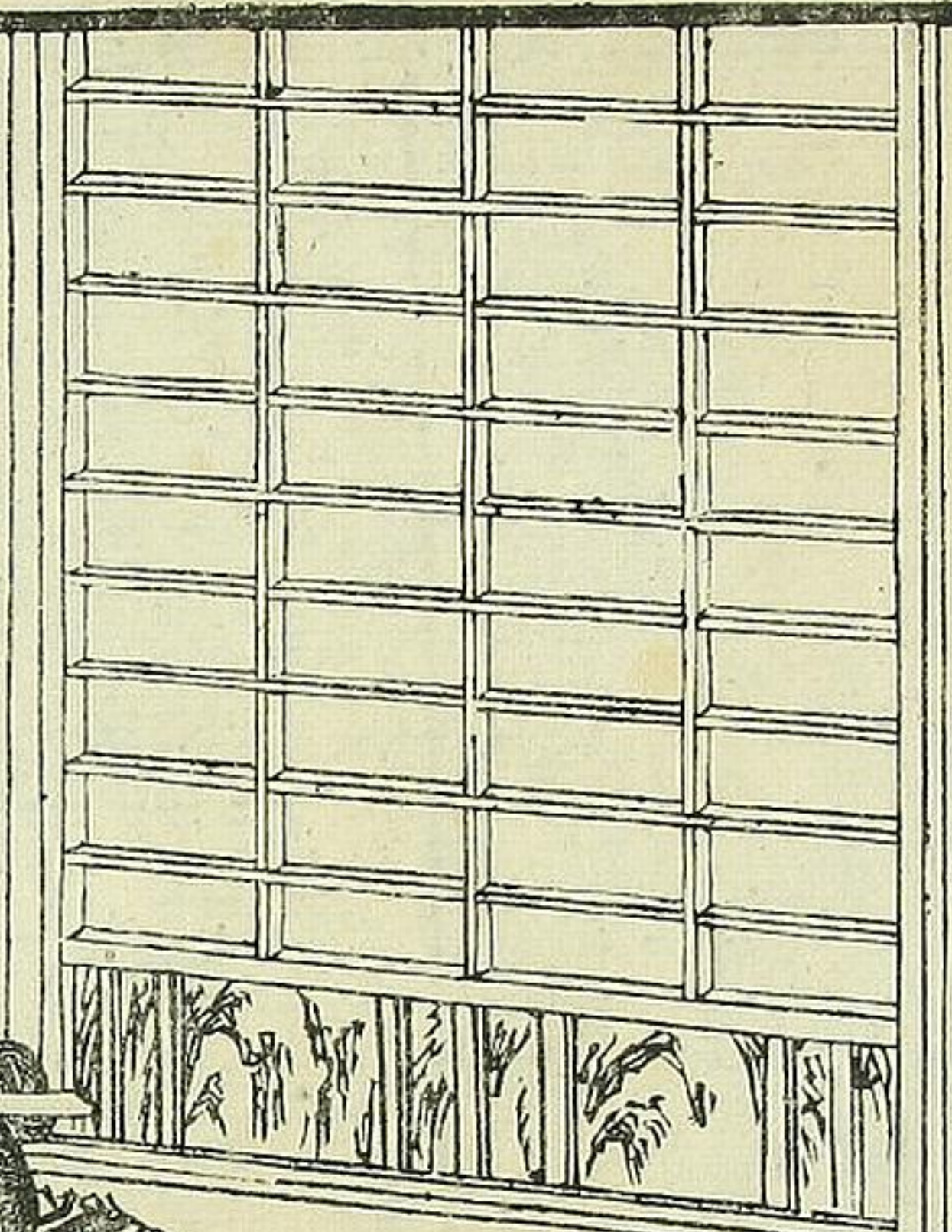
△老女は春の日の光を浴びて
 花の香りをかぐ
 用は後には
 花の香りをかぐ
 △老女は春の日の光を浴びて
 花の香りをかぐ
 用は後には
 花の香りをかぐ



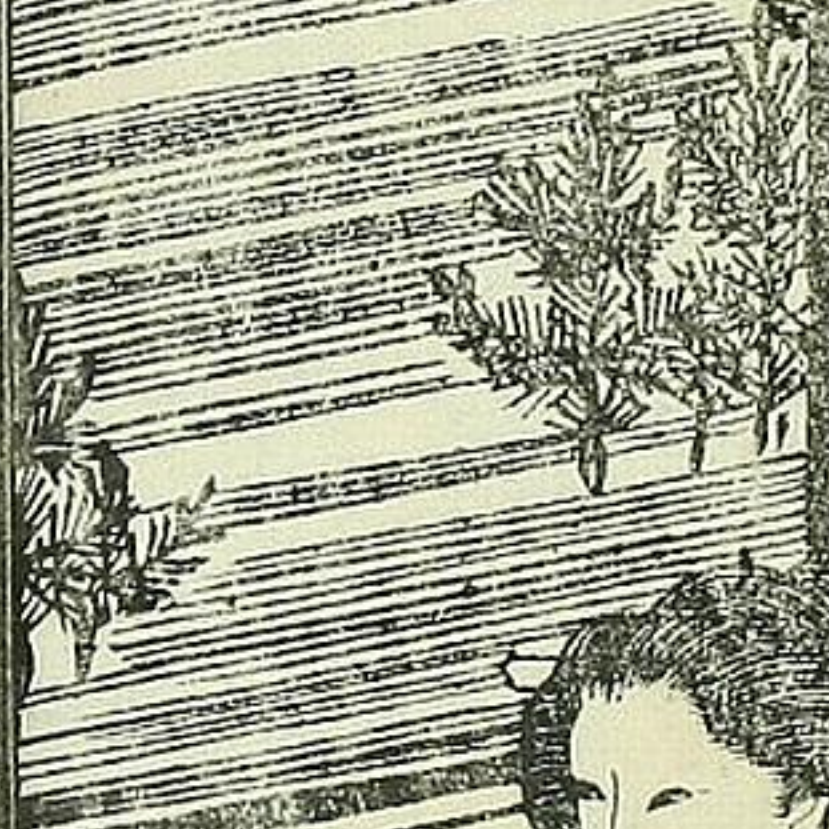
△老女は春の日の光を浴びて
 花の香りをかぐ
 用は後には
 花の香りをかぐ

竹千代君

△老女は春の日の光を浴びて
 花の香りをかぐ
 用は後には
 花の香りをかぐ



Handwritten text in a stylized script, possibly a mix of English and another language, located at the top of the right page.



Large block of handwritten text on the right page, continuing the script from the top section.

Handwritten text in a stylized script, located at the top of the left page.



Handwritten text in a stylized script at the bottom of the left page.

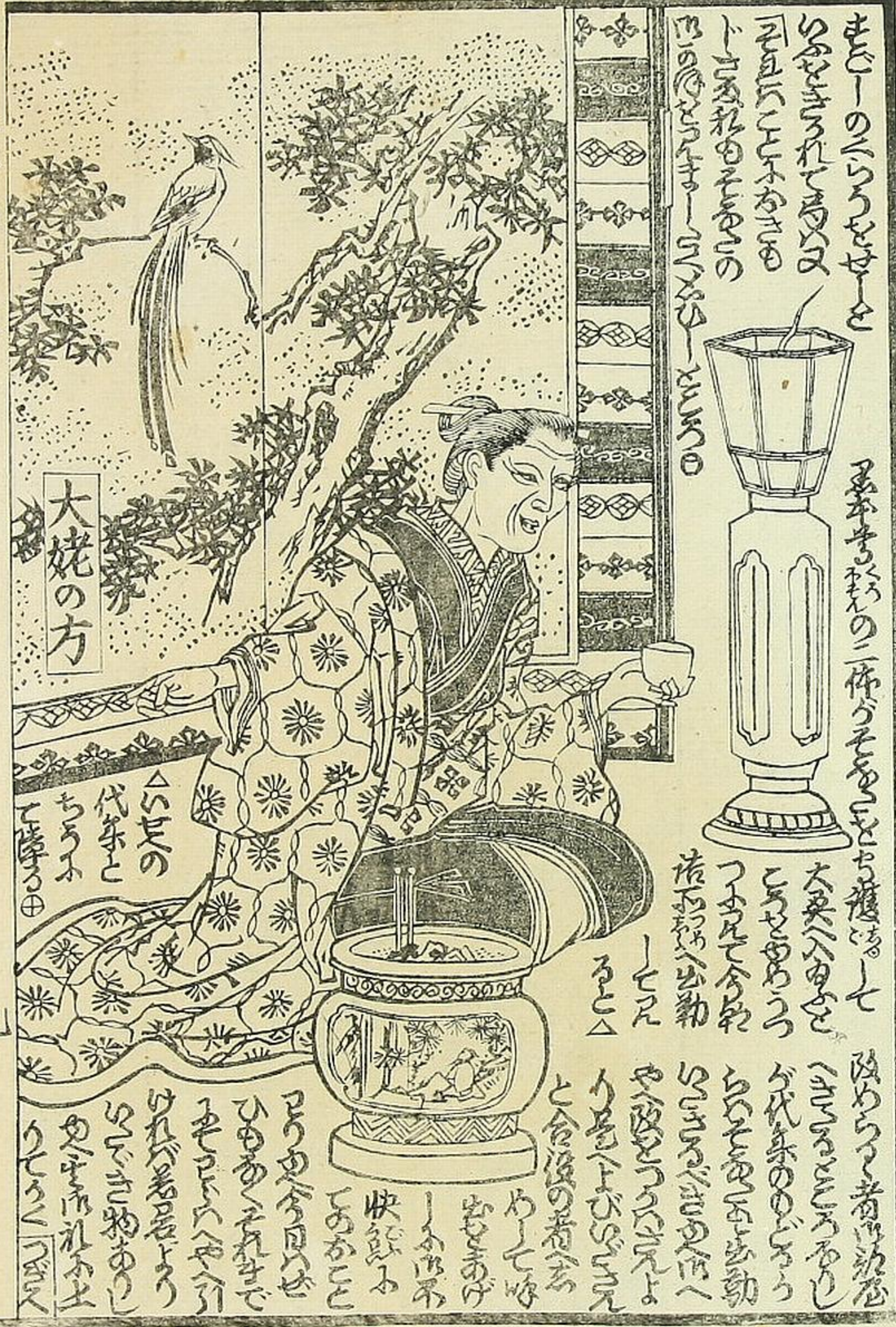
此の茶の味は昔の茶の味と異なるが、その味は
 殊に芳醇で、飲むと心も安らぎ、口も清く、
 喉も潤い、胃もよく、消化もよく、
 精神も爽快、
 此の茶の味は昔の茶の味と異なるが、
 その味は殊に芳醇で、飲むと心も安らぎ、
 口も清く、喉も潤い、胃もよく、消化もよく、
 精神も爽快、



春日の司

今般に茶の味は昔の茶の味と異なるが、その味は殊に芳醇で、飲むと心も安らぎ、口も清く、喉も潤い、胃もよく、消化もよく、精神も爽快、

此の茶の味は昔の茶の味と異なるが、その味は
 殊に芳醇で、飲むと心も安らぎ、口も清く、
 喉も潤い、胃もよく、消化もよく、
 精神も爽快、
 此の茶の味は昔の茶の味と異なるが、
 その味は殊に芳醇で、飲むと心も安らぎ、
 口も清く、喉も潤い、胃もよく、消化もよく、
 精神も爽快、



大焼の方

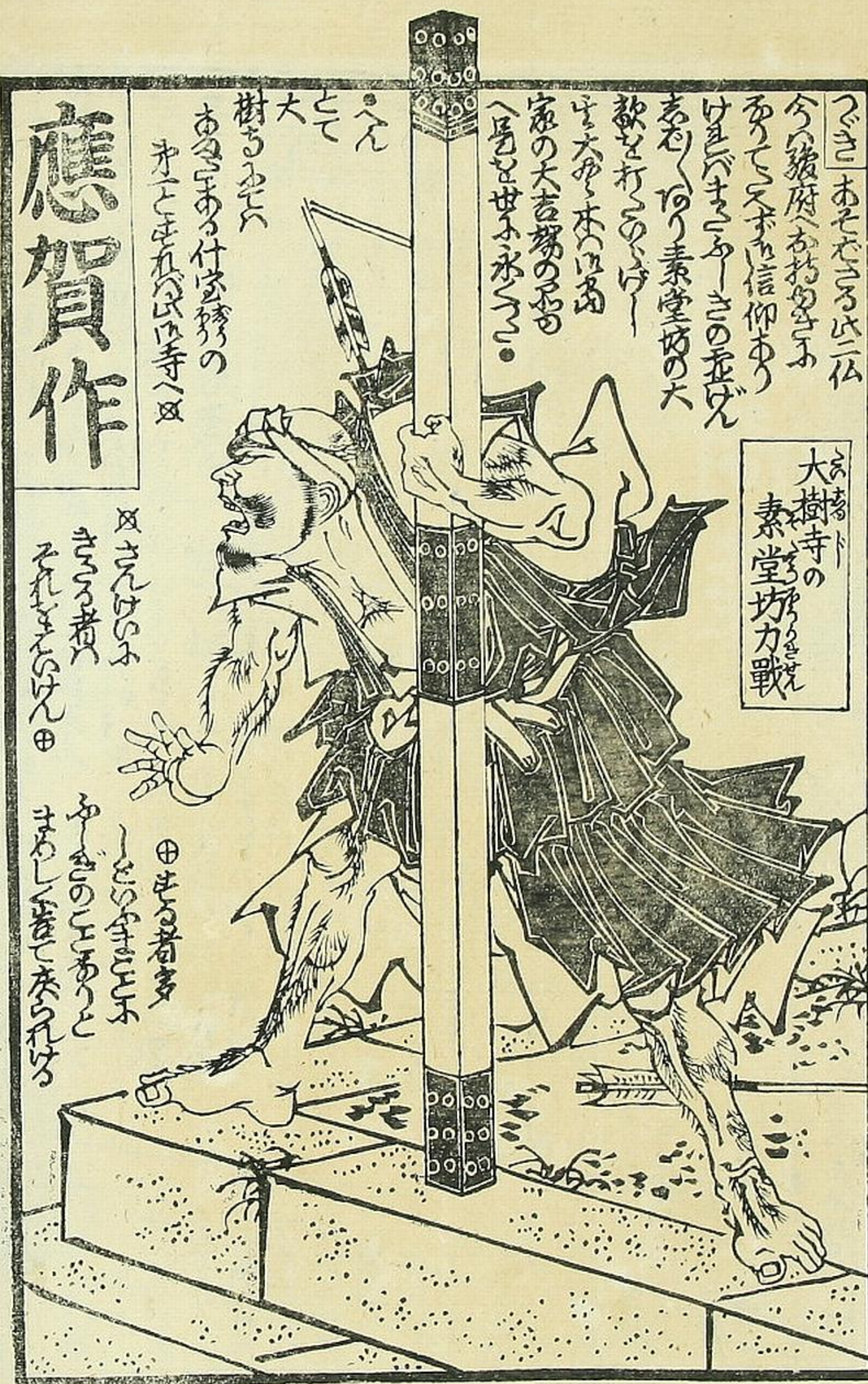
此の茶の味は昔の茶の味と異なるが、その味は殊に芳醇で、飲むと心も安らぎ、口も清く、喉も潤い、胃もよく、消化もよく、精神も爽快、

代茶とちりふて摩る

此の茶の味は昔の茶の味と異なるが、その味は殊に芳醇で、飲むと心も安らぎ、口も清く、喉も潤い、胃もよく、消化もよく、精神も爽快、

つぎおそなるは二仏
今(後)府へお持ち寄り
ありてこそまは信仰あり
けま(ま)ま(ま)あ(ま)の(ま)せん
志(ま)の(ま)素(ま)堂(ま)坊(ま)の大(ま)
歎(ま)を(ま)打(ま)の(ま)け(ま)
ま(ま)大(ま)の(ま)木(ま)の(ま)は(ま)あ(ま)
室(ま)の(ま)大(ま)吉(ま)塚(ま)の(ま)あ(ま)
へ(ま)と(ま)世(ま)ふ(ま)永(ま)く(ま)。

大樹寺の
素堂坊力戦



應賀作

×××××
×××××
×××××

×××××
×××××
×××××

大とて
樹の
あ(ま)の(ま)あ(ま)の(ま)付(ま)は(ま)終(ま)の(ま)
オ(ま)と(ま)ま(ま)の(ま)は(ま)寺(ま)へ(ま)

明良二葉抄

初編より追々出版

朝鮮異聞 四冊 續切

繪奉一代記物 品々

上等色入小本品々

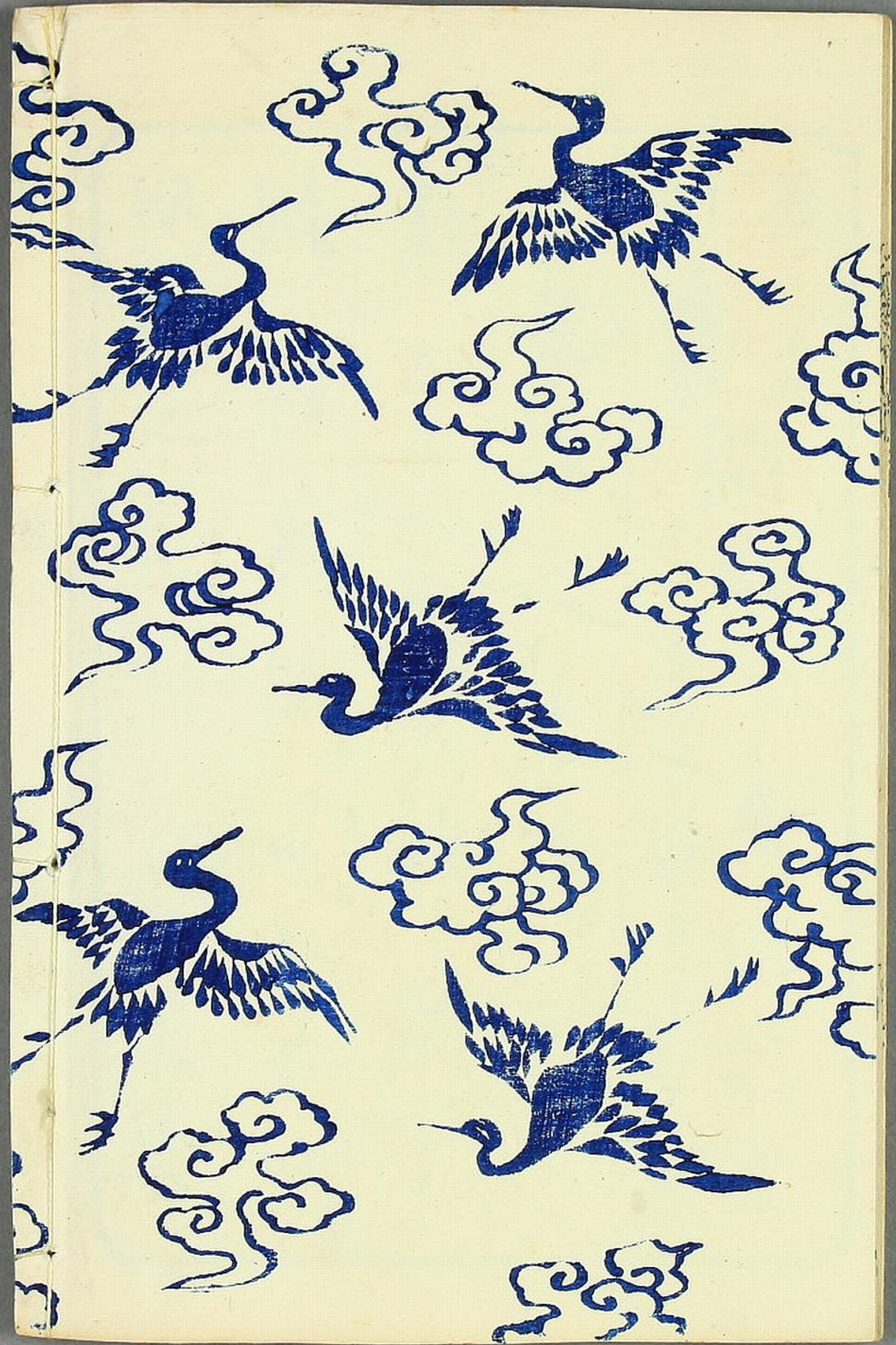
地本錦繪

問屋

武川清吉

團扇

東京日本橋区本銀町二丁目角





揚海周延奉

御本
大真

下の
お茶



10

15

20

25

30

大御所



家康公本封
旋慶長六年
正月元日肉身
の木像を造る給

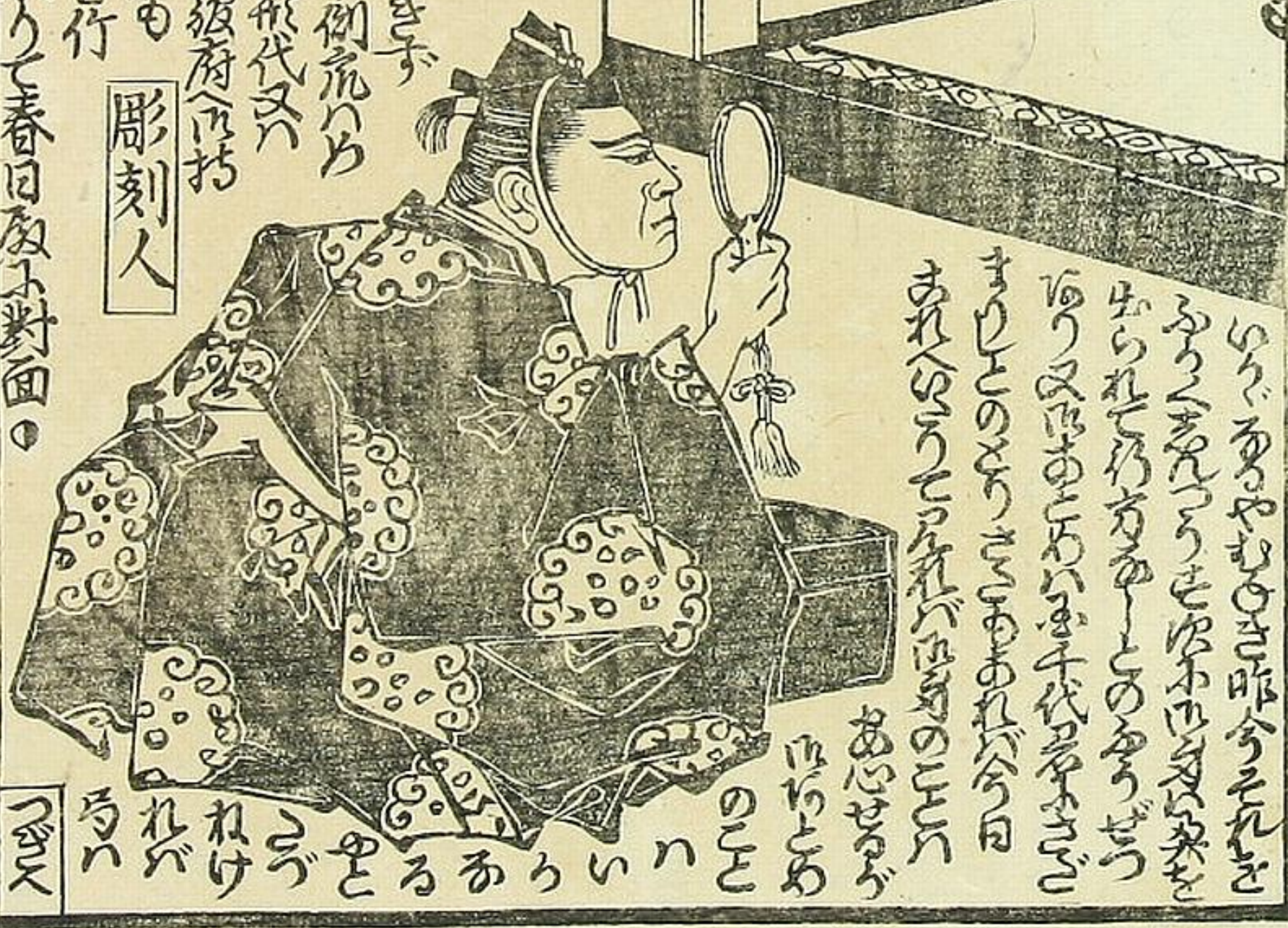
氏治の彫刻人松平恒三守宗延也。此像を奉りて春日殿小對面。

○本御所
あれは...
この...
この...

此東常陸の山本像を...
肉合...
たの...
を...
多...
そ...
山...

○康公...
あ...
生...
乃...
の...
山...
あ...
る...
千...

彫刻人

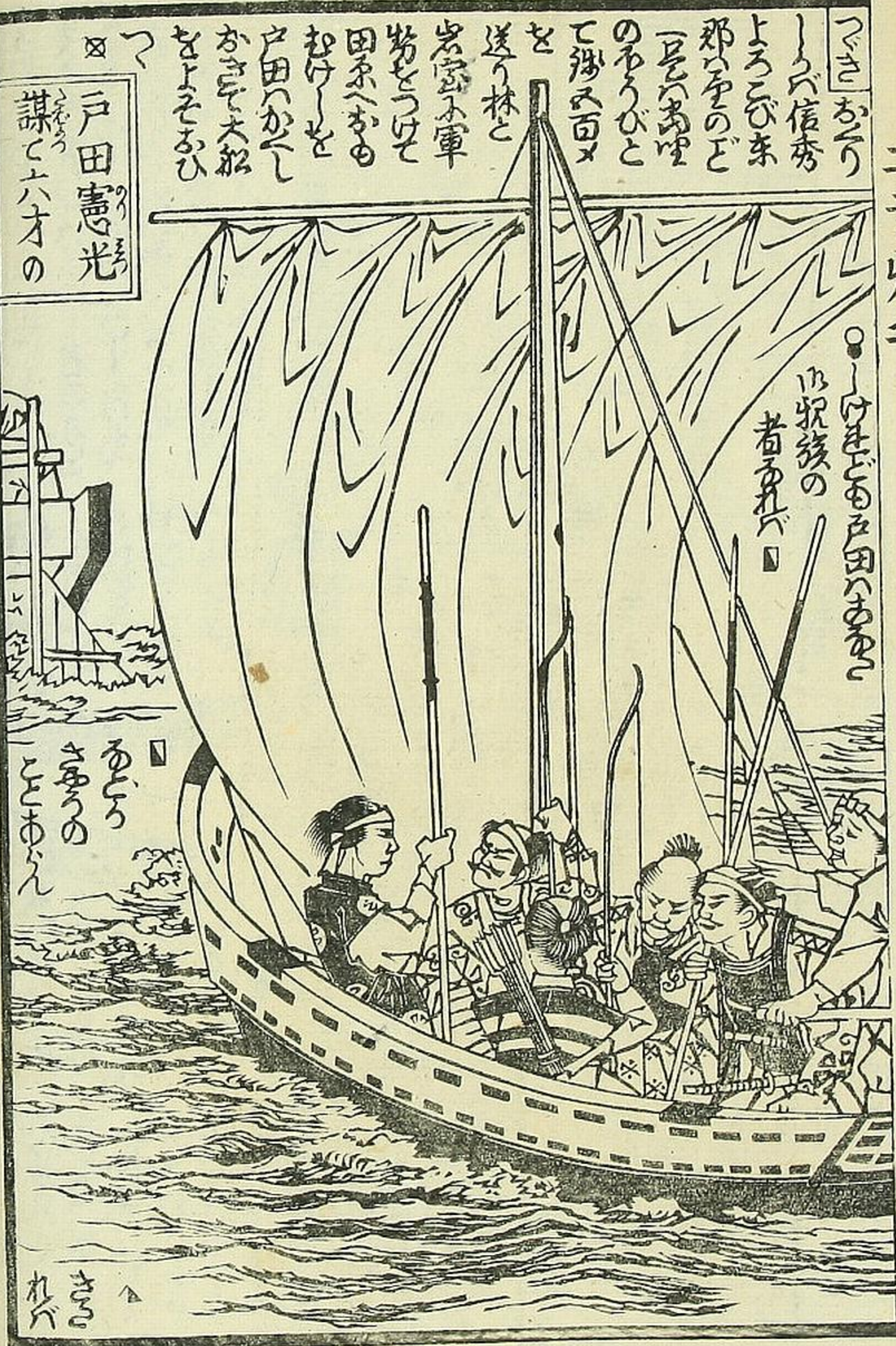


○本御所
あ...
この...
この...
あ...



竹千代君





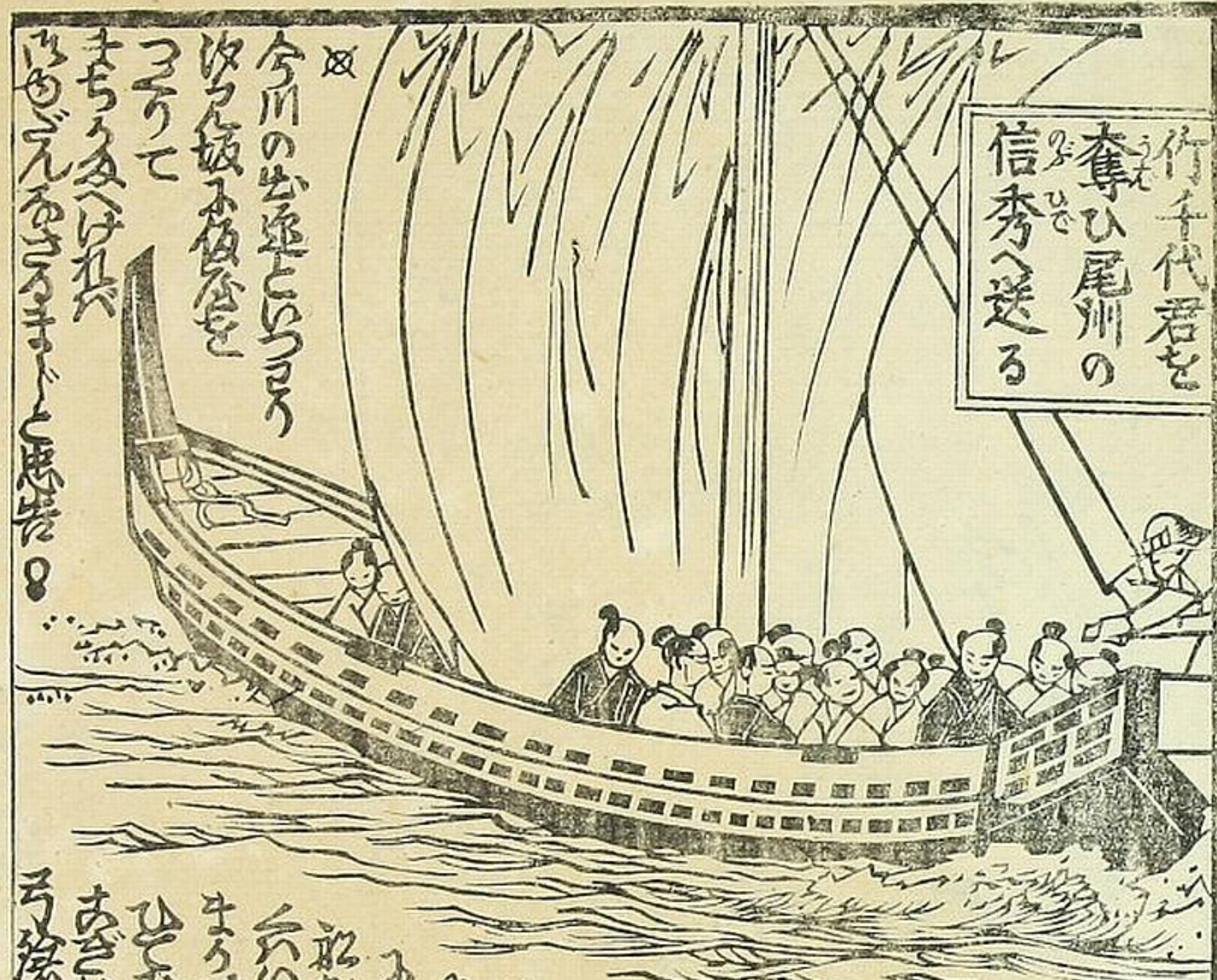
つぎのちり
 一六信秀
 よるこひま
 那のそのだ
 一豆のあま
 のちうびと
 て海を百々
 を
 送り林と
 宗室小軍
 物をつけて
 田本へおも
 おけり
 戸田のかし
 かさで大船
 をよそおもひ

戸田憲光
 謀て六才の

○一六信秀の戸田のまゝ
 船後の
 者あり

あつち
 さき
 こころん

きり
 れ



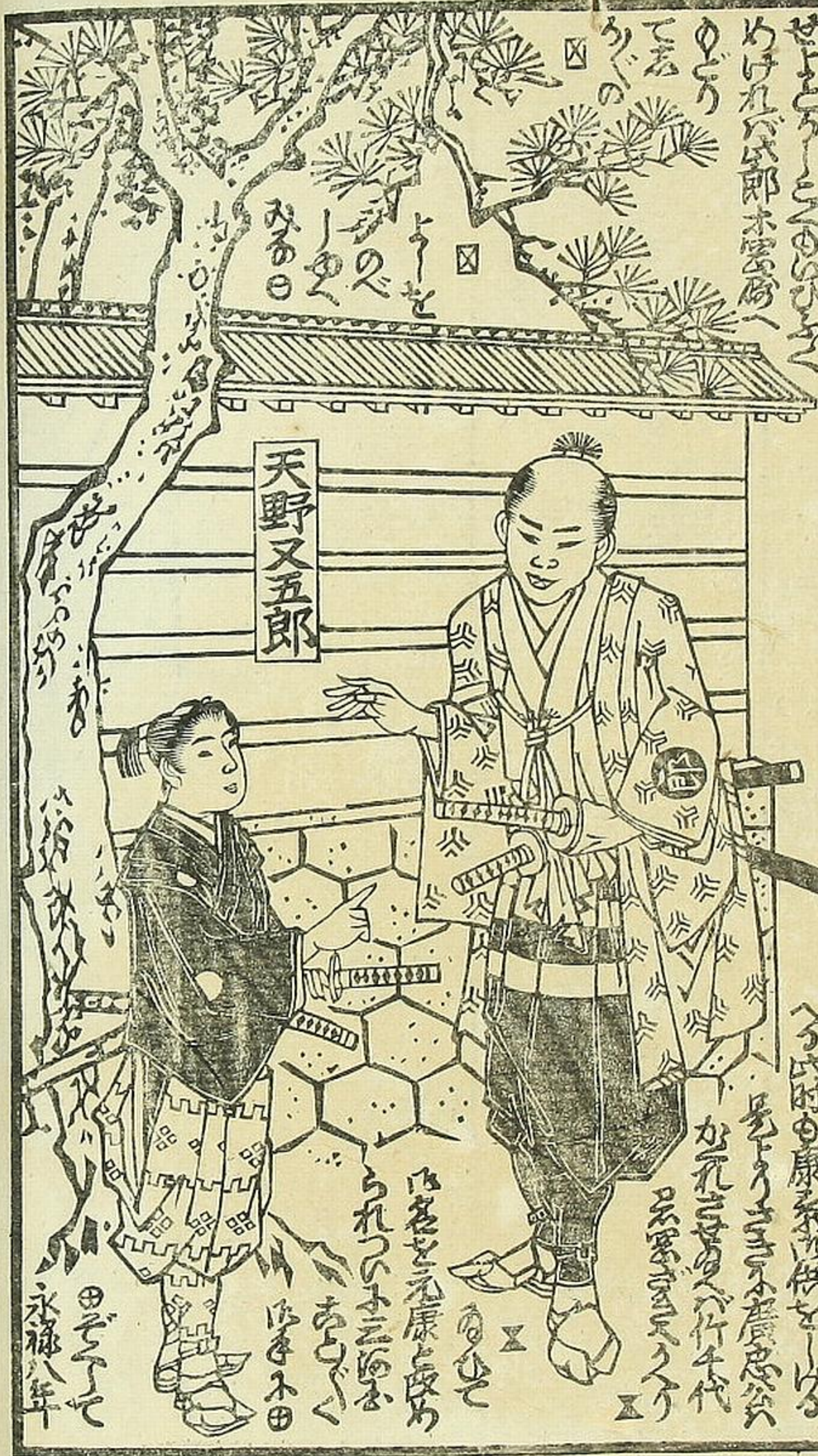
竹千代君を
 奪ひ尾州の
 信秀へ送る

今川の出陣と云ふ
 次は坂本信盛を
 ついで
 まちうあはれ
 はあへんあつち

どうして
 平太をう
 がひけるか
 夜あけか
 かよび戸田
 飯盛来る
 てお船か
 りま
 うあひひ
 林本幸七郎とて
 長より獲りし
 隣りのさ
 のさのさ
 をたを助らうけ
 船を用いまま
 今川のさ
 まうせ竹千代
 ひとあへく船
 はあへんあつち
 云々

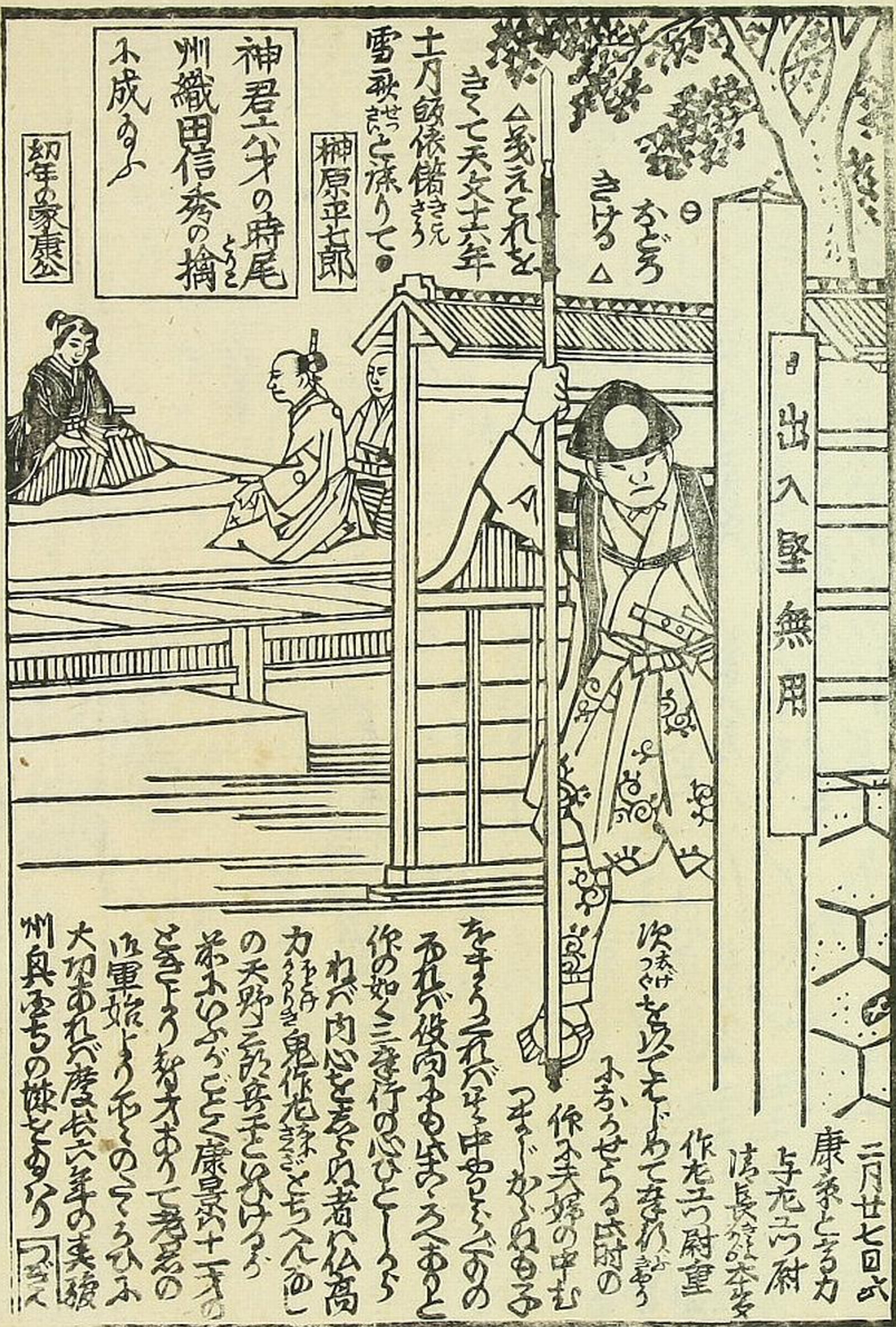
是の田の
 熱田の赤坂を
 けるあみあ
 船がふや
 うちとを隣
 陸より川
 ちうては
 つて竹千代
 るこの
 林本幸七郎
 熱田の大
 かねは供
 れとて今
 まをさ
 康永七年

ついでに... 天野又五郎... 信秀の三男... 竹千代... 康系... 永梅八年



天野又五郎

永梅八年



出入堅無用

神君三才の時尾
州織田信秀の掬
不成あり

幼年の家康

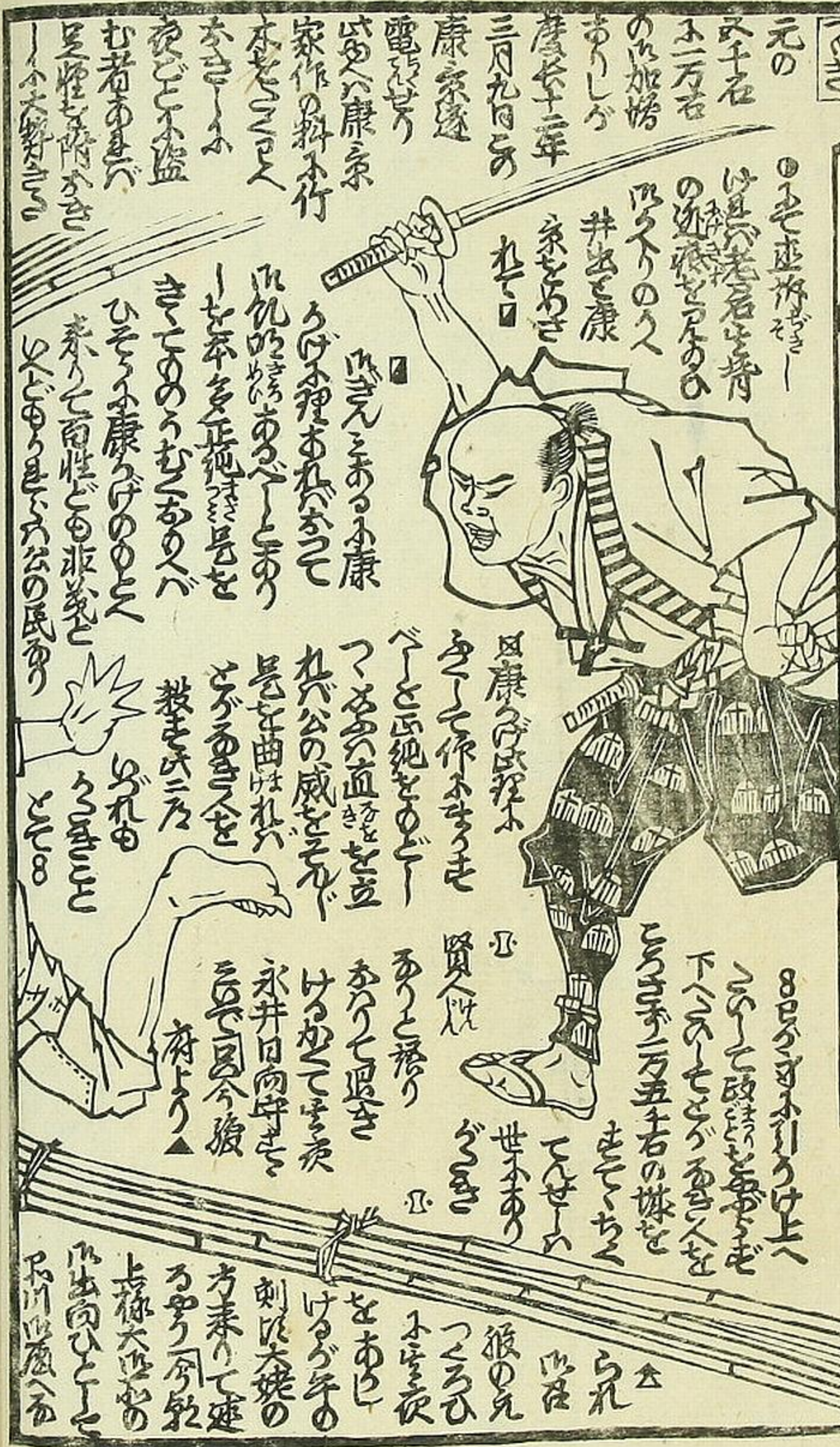
三葉山三ノ

三十一

二月廿七回... 康系と... 与九三... 信秀の三男... 竹千代... 康系... 永梅八年

竹木置場

天野三郎兵衛



元

元の名は...

元の名は...

元の名は...

元の名は...

元の名は...

元の名は...

元の名は...

元の名は...

元の名は...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

天野康景
の竹木を
御領の百
姓盗小未る



りて盗三とるを

刀をぬきてふせむ

まうそのいひは盗賊の

冒すの下ある御領の

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

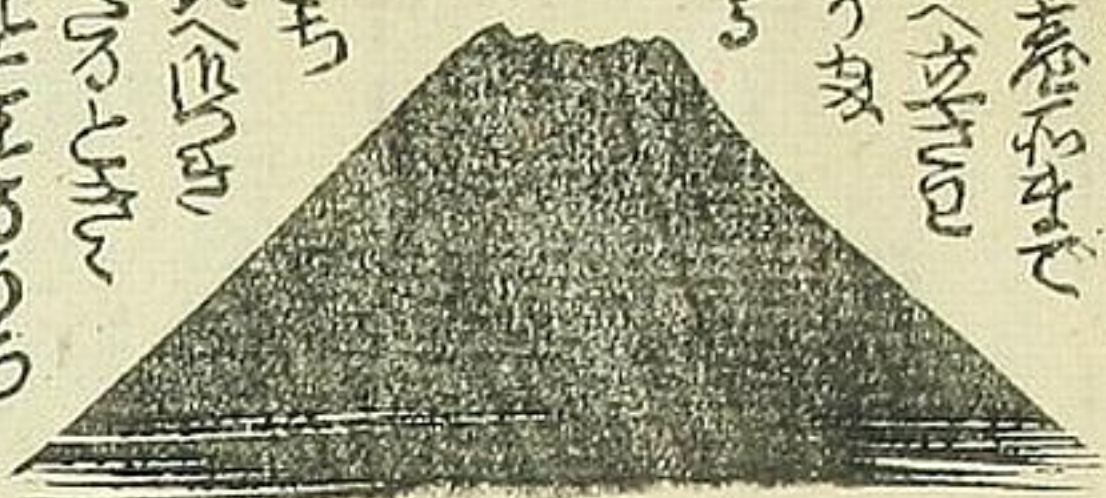
...

...

...

二葉州下

ついでにこの山
 の下にこの山は
 よういふ山を
 上と下へさす
 人のあつた
 君の山
 まで
 名目と
 せられ
 一ゆえち
 まちまへは
 小のこころ
 それこれとさうち
 両君大入りの
 ひては君の山
 であるの相持
 ありあつた老
 作せあつた
 身を山に
 へさすは山

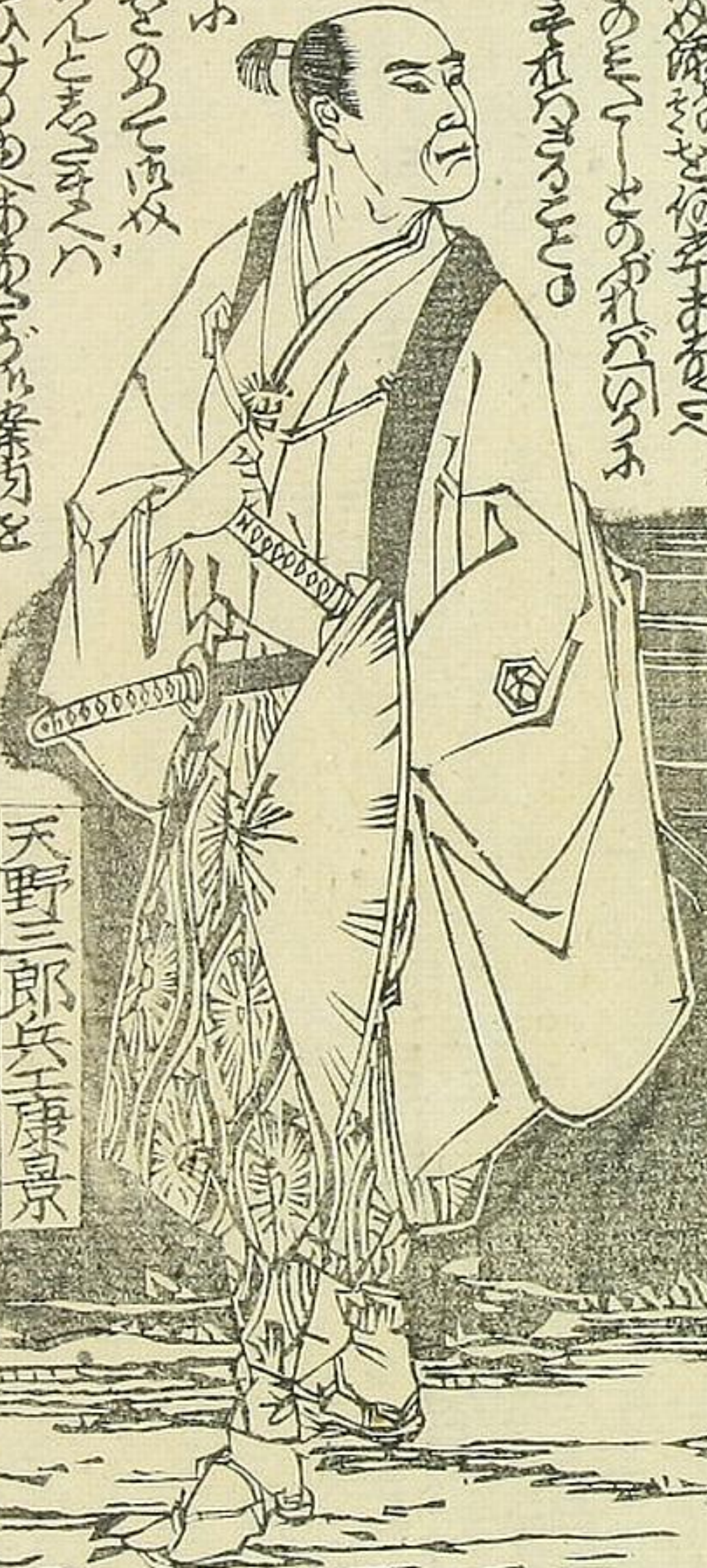


ついでにこの山
 の下にこの山は
 よういふ山を
 上と下へさす
 人のあつた
 君の山
 まで
 名目と
 せられ
 一ゆえち
 まちまへは
 小のこころ
 それこれとさうち
 両君大入りの
 ひては君の山
 であるの相持
 ありあつた老
 作せあつた
 身を山に
 へさすは山

〇眉
 さい
 さい
 さい

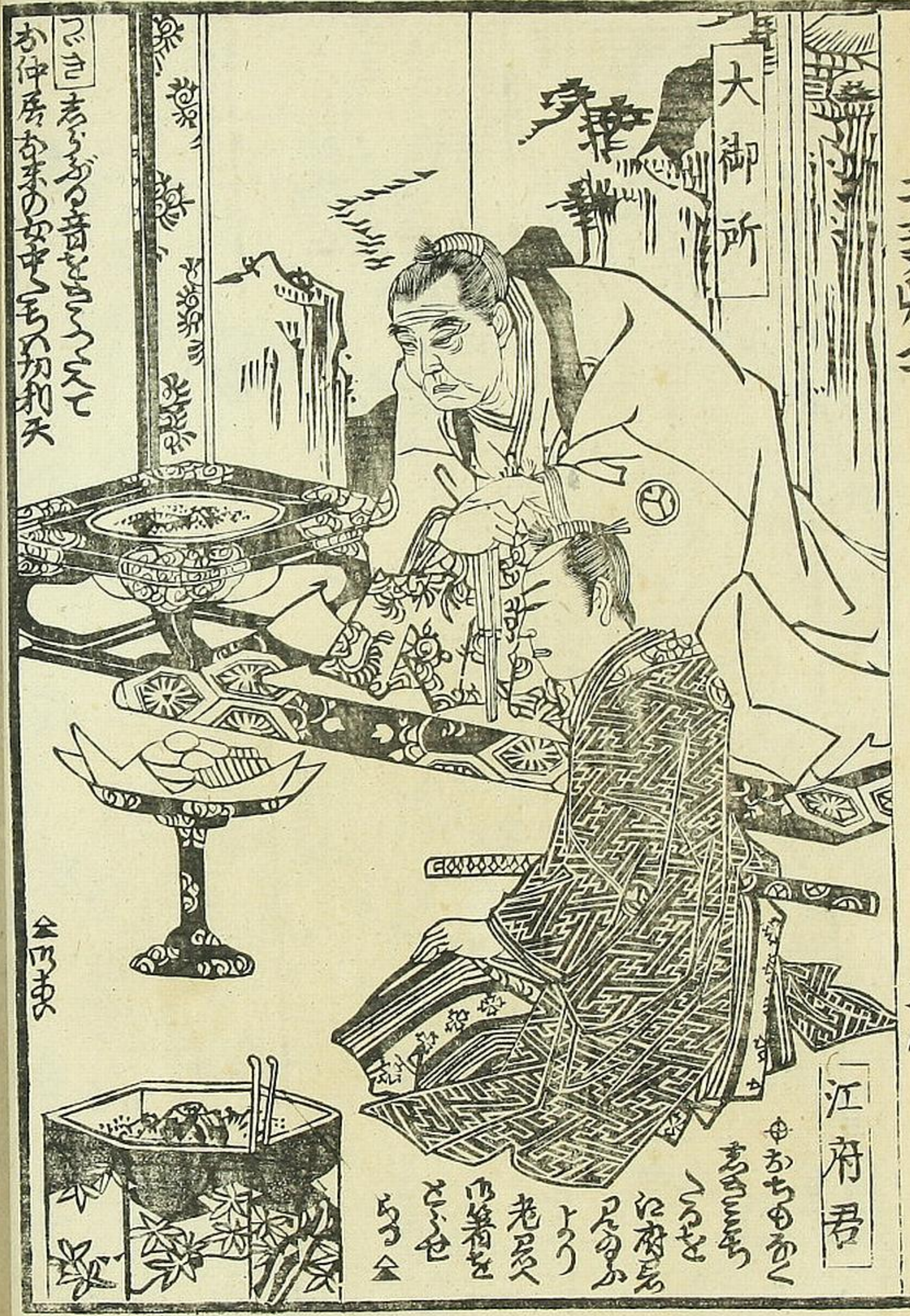
天野康景
 君臣の儀
 を守りて
 駿州真國
 寺の居城
 を逐電す

ついでにこの山
 の下にこの山は
 よういふ山を
 上と下へさす
 人のあつた
 君の山
 まで
 名目と
 せられ
 一ゆえち
 まちまへは
 小のこころ
 それこれとさうち
 両君大入りの
 ひては君の山
 であるの相持
 ありあつた老
 作せあつた
 身を山に
 へさすは山



天野三郎兵衛康景

ついでにこの山
 の下にこの山は
 よういふ山を
 上と下へさす
 人のあつた
 君の山
 まで
 名目と
 せられ
 一ゆえち
 まちまへは
 小のこころ
 それこれとさうち
 両君大入りの
 ひては君の山
 であるの相持
 ありあつた老
 作せあつた
 身を山に
 へさすは山



大御所

江府君

おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの

おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの



御臺所

おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの

おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの
おちちの

おちちの

ふき我相は竹千代のまゝ
ゆつものごとあれどもまゝの
つらあつとまゝあ
附の女どもあまを
つれては座をさへ
ひきさられとまゝ
とまゝ作ふに所居
の差所をもとめ
死儀の上落方
老女はまゝ
みる赤面燈
しと二言の
ゆきを
まろのの
びあつり
けり



老女

應賀作 周延画

八編九編
十編ハのそや
服割ふ元
かゝりひあつこ
是まての
こゝに英列の
住まらさうの
は度よりこ
さのしや
かう備ふ
おきり
扱元
敬南

明良二葉抄 初編より追々出版

朝鮮異聞 四冊續切

繪奉一代紀物 品々

上等色入小本品々

地本錦繪

東京日本橋区本銀町二丁目南

團扇 問屋 武川清吉





明良二葉神州

紫洞

